

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 13日

中施策事業名	医療介護連携推進事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿

①めざすまちの姿	02 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心して
②大施策	市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する
③中施策	市民が安心できる地域の医療・福祉をつくる民間の活動を支援する
④中施策事業の対象	医療介護関係機関・従事者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	連携がスムーズになされ、質の高いケアを提供できている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・医療介護連携推進事業に関すること ・いきいき笑顔ネットワークに関すること ・多職種人材育成事業に関すること ・多職種合同ケアカンファレンスに関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
ICTいきいき笑顔 ネットワークにより 多種職連携のもと 支援される高齢者 の人数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	500	520	540	560	580	590
	実績値	575	660				
単位	人						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費(a+b)				29,422千円	19,699千円	
	a 事業費合計			26,467千円	16,776千円	12,197千円
	人件費	正規職員	人数	0.5 人	0.5 人	
			b 金額	2,955千円	2,923千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0.5 人	
			金額	0千円	2,390千円	
			人件費合計		2,955千円	5,313千円
② 補助金等（収入）				21,571千円	13,085千円	9,513千円
③ コスト（①－②）				7,851千円	6,614千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				114 円	96 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成29年度は、医療介護サポートセンターかけはしが7月から業務を開始し、入院患者の退院に向けたサポートが強化され、患者や家族の安心が拡大した。センターの運営経費についてはあらたに発生する経常的経費となるが、隣接の東郷町及び藤田保健衛生大学との共同設置とし財政負担の軽減を図っている。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	医療介護サポートセンターかけはしが実施する入院中の患者に対する退院に向けての支援（退院サポート事業）を通じて、対応ケースを分析し、医療介護連携における課題の把握を行う	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	上記において把握した課題に基づく、関係医療機関との協議いきいき笑顔ネットワークの他部署の活用をすすめる	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	医療介護サポートセンターかけはしが7月に開所し、退院支援に係る患者動向調査を実施し、切れ目のない医療介護の提供体制について課題把握を行った。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	本事業は、三位一体改革の消費税増税分を財源とした社会保障充実事業として実施するもの。医療介護サポートセンターかけはしが7月に開所し、制度の趣旨に沿った事業の充実がなされている。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 17日

中施策事業名	成人検（健）診事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿

①めざすまちの姿	02 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心して
②大施策	市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する
③中施策	多様な主体者が共通の目標を持ち、行動できる環境をつくる
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	1年に1度検（健）診を受診する。結果により、医療機関への受診等、健康に過ごすための行動を起こすことができる
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・がん検診 ・歯科健診 ・骨粗鬆症検診 ・特定健診 ・はつらつ健診 ・35-39歳健診 ・成人健診

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
胃がん検診における精密検査受診率 (要精密検査者数÷精密検査受診者数)	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	87	87	88	88	89	89
	実績値	77.6	74.1				
	単位	%					
各種がん検診延受診人数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	24,000	25,000	26,000	27,000	28,000	28,000
	実績値	24,347	22,616				
	単位	人					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費(a+b)				181,491千円	191,170千円	
	a 事業費合計			163,764千円	173,635千円	172,051千円
	人 件 費	正 規 職 員	人 数	3 人	3 人	
			b 金 額	17,727千円	17,535千円	
		非 常 勤 一 般 職 員 等 (事業費に含む)	人 数	1.5 人	1.5 人	
			金 額	1,175千円	1,175千円	
		人件費合計			18,902千円	18,710千円
② 補助金等（収入）				32,298千円	35,725千円	39,691千円
③ コスト（①－②）				149,193千円	155,445千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				2,171 円	2,262 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	精密検査受診率、がん検診受診人数ともに下がっている。全体の受診率の向上に向けてPR方法や節目にあたる対象者への勧奨方法など改善見直し等検討が必要。精密検査受診についても、医療機関と連携を密にするとともに、未受診者へのさらなる勧奨通知を検討が必要。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	がん検診と骨検診を同日実施し、受診者の向上をめざす。医療機関でも特定健診・はつらつ健診とがん検診が同日で実施できるなど、対象者の利便は図っている。精密検査が必要な対象者には、医療機関の協力を得ながら受診率の向上に努める。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	がん検診と骨検診の同日実施数の増加。個人通知対象者の拡大を図る。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	がん検診と骨健診の同日実施、医療機関での特定健診・はつらつ健診とがん検診の同日実施により対象者の利便性を図ったため、受診者数の増加が若干みられた。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	H30年度はがん検診と骨健診の同日実施日を4日間設けているが、H31年度は同日実施日と単独実施日を予定する。 医療機関で受ける健(検)診においては保健センターを介さず、直接医療機関へ申し込む方法としていることで対象者の利便を図っていく。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 27日

中施策事業名	休日診療所事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	02 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心してしている		
②大施策	市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する		
③中施策	多様な主体者が共通の目標を持ち、行動できる環境をつくる		
④中施策事業の対象	- 日・祝祭日、年末年始に豊明市休日診療所を受診した者 - 市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	- 適切にかかりつけ医を受診できている - 急病の場合、豊明市診療所を知っており受診できている - 緊急時に受診できる病院を知っており、受診することができている		
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	豊明市休日診療所事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
患者人数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	実績値	1,885	2,290				
単位	人						
市内にある、休日・夜間に診療可能な病院数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	4	4	4	4	4	4
	実績値	4	4				
単位	件						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費(a+b)				20,926千円	21,384千円	
	a 事業費合計			20,335千円	20,799千円	23,082千円
	人 件 費	正規職員	人数	0.1 人	0.1 人	
			b 金額	591千円	585千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	12 人	12 人	
			金額	3,302千円	3,390千円	
		人件費合計			3,893千円	3,975千円
② 補助金等（収入）				21,172千円	21,072千円	20,000千円
③ コスト（①－②）				-246千円	312千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				-4 円	5 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	広報、ホームページに急病の際の受診方法について周知している。疾病の流行により患者数の増加があり、H30は医薬品を増加する等対応する。患者数の増加がみられることは、市民に周知されてきていると判断できる。インフルエンザの流行により、患者数の増加、高い判定薬・治療薬の使用が増えたため赤字収支が消えている。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	医師会等が作成してる医療マップを市内公共施設に配置し、市民への周知徹底する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	休日診療所及び緊急時の相談先を、継続して広報やホームページに掲載する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	市役所庁内、公共施設に医療マップを配置し市民への周知を図った。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	緊急時の医療機関への受診方法や自宅での対処方法など周知し、市民の不安の軽減を目指す。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 27日

中施策事業名	健康づくり事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	11 子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている		
②大施策	誰もが気軽に運動を楽しみ、健康に暮らせるまちをつくる		
③中施策	市民の体調や基礎体力を整えるための活動を支援する		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民自ら健康の増進や疾病予防のために行動し、また地域全体でも取り組んでいる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・とよあけ健康21計画 ・健康づくり事業（出前講座、教室等） ・特定保健指導 ・CKD対策 ・健康マイレージ ・健康相談 ・食育推進事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
とよあけ健康ウォーキング参加人数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	830	830	830	830	830	830
	実績値	719	575				
単位	人						
大金星マイレージシートまいか交換枚数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	20	50	100	150	200	200
	実績値	23	44				
単位	枚						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費(a+b)				11,133千円	9,750千円	
	a 事業費合計			496千円	398千円	468千円
	人件費	正規職員	人数	1.8 人	1.6 人	
			b 金額	10,637千円	9,352千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		10,637千円	9,352千円
② 補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）				11,133千円	9,750千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				162 円	142 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	運動習慣の定着を目的としてウォーキング活動を実施しているが、参加者が前年度より20%減少している。従来の参加者が高齢化してきていることも考慮し、新規参加者を広げる必要がある。大金星マイレージ事業については指標数値が若干増加しているが、まだまだ市民への認知度をあげる必要がある。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	とよあけ健康21計画の中間評価にあわせて、地域での運動活動についての情報収集し、ウォーキング事業の見直し検討する。大金星マイレージ事業は広報・ホームページ等で周知を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	地域の運動活動などへの、大金星マイレージ事業のPR周知に取り組む必要がある。ウォーキング事業については推進グループの状況を加味して見直しする。また、介護予防事業との連携を検討していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	ウォーキング事業では広報へ事業PRする際に推進グループの募集を周知した。大金星マイレージ事業では、関連事業時にPRを行った。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	大金星マイレージ事業については、マイレージ到達についての満足度をあげる内容を検討していく。また、介護予防事業との連携を検討していく。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 13日

中施策事業名	敬老事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができています		
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる		
③中施策	高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる		
④中施策事業の対象	数え88歳、99歳、100歳以上の市民 70歳以上の独居者への年末お見舞訪問		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	在宅で過ごしている高齢者が増えている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	- 敬老事業の祝金配布事業 - 独居高齢者年末見舞訪問		

■評価指標

中 ・ 長 期 成 果 に 対 す る 目 標 達 成 状 況								
敬老祝訪問数		事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
		目標値	280	285	290	295	300	310
		実績値	307	318				
単位	人							
		事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費(a+b)				3,849千円	3,521千円	
人 件 費	a 事業費合計			2,076千円	2,352千円	2,747千円
	正 規 職 員	人数	0.3 人	0.2 人		
		b 金額	1,773千円	1,169千円		
		非 常 勤 一 般 職 員 等 (事業費に含む)	人数	0 人	0.2 人	
			金額	0千円	20千円	
		人件費合計			1,773千円	1,189千円
② 補助金等（収入）				1千円	1千円	0千円
③ コスト（①－②）				3,848千円	3,520千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				56 円	51 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	関係機関と連携し、目標達成に向けた取り組みを行っている。高齢者数の増加に伴い、敬老祝訪問数も増え、高齢になっても住み慣れた地域で生活している人が増えている。必要に応じて他の事業等と組み合わせたり民生委員の訪問につなげ高齢者の孤立化防止に貢献している。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項		
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	関係機関との連携方法、対象者の把握方法の検討 高齢者数に応じた対象者の検討を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	本事業の訪問時に生活環境などの確認を行い、必要な人には必要な支援につなげるように取り組んでいる。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	民生委員と協力・連携しながら高齢になっても住み慣れた地域で生活を送れるように事業に合わせて訪問し、安否確認を行っている。高齢化に伴い、対象者数も増えている。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 6日

中施策事業名	介護予防生活支援事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている		
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる		
③中施策	高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる		
④中施策事業の対象	要支援 1, 2 及び事業対象者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	重症化が予防できている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	- 介護予防日常生活支援総合事業 - 介護予防ケアマネジメントについて		

■評価指標

中 ・ 長 期 成 果 に 対 す る 目 標 達 成 状 況								
要介護認定率		事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
		目標値	13.5	13.8	13.8	14	14.2	14.4
		実績値	13.2	13.8				
単位	%							
		事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				59,444千円	90,958千円	
	a 事業費合計			56,489千円	88,035千円	93,893千円
	人件費	正規職員	人数	0.5 人	0.5 人	
			b 金額	2,955千円	2,923千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	1 人	0.5 人	
			金額	2,945千円	0千円	
		人件費合計			5,900千円	2,923千円
② 補助金等 (収入)				44,540千円	77,030千円	82,156千円
③ コスト (①－②)				14,904千円	13,928千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				217 円	203 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成29年度は、総合事業におけるサービス事業給付費（要支援者のデイ・ヘルパーに係る経費）が前年より3%程度下がる結果となり、高齢化が進展し給付費の増大が当たり前である状況で伸び率が圧縮された以上に減少までしたのは大きな成果である。 一方で、要介護者は増えており認定率は上昇しているところが懸念されるところである。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	過去2年間の総合事業実施状況の振り返り	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	給付費（費用額）と重症化率の定期的なモニタリング	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	本事業は、介護保険の要支援者のデイサービス、ヘルパーサービスが介護給付から切り離されて、本事業へと移行したのものであり、本事業単体での事業費の伸びはそのためである。本事業の実施により平成29年度は、要支援者のデイサービスに係る実経費が前年より3%程度下がる結果となった。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	給付費の抑制が認められたので、受け皿となるサービスの安定的な確保のため、平成30年度中に、短期集中元気アップリハビリ（総合事業C型サービス）の単価の引き上げを行うこととした。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 24日

中施策事業名	包括支援事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている		
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる		
③中施策	高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる		
④中施策事業の対象	65歳以上の市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	日常生活に係る様々な相談ができることを知っている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・包括支援センター運営支援に関すること ・総合相談支援業務に関すること ・高齢者虐待に関すること ・成年後見制度に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
地域包括支援センターの相談件数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	1,500	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900
	実績値	1,652	2,509				
単位	件						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				71, 819千円	87, 963千円	
	a 事業費合計			68, 864千円	82, 118千円	90, 519千円
	人 件 費	正 規 職 員	人 数	0. 5 人	1 人	
			b 金 額	2, 955千円	5, 845千円	
		非 常 勤 一 般 職 員 等 (事業費に含む)	人 数	0 人	0 人	
			金 額	0千円	0千円	
		人件費合計			2, 955千円	5, 845千円
② 補助金等 (収入)				61, 541千円	67, 952千円	69, 699千円
③ コスト (①－②)				10, 278千円	20, 011千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				150 円	291 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	本事業は、三位一体改革の消費税増税に伴う社会保障の充実の一環であり、高齢者の地域生活の総合相談窓口の強化が求められることから、平成29年度は、中部地域包括支援センターが設置され、3包括体制となり、担当エリアが狭くなった分、きめ細かに支援できるようになり相談件数も増加した。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	月1回包括ケアカンファレンス（地域ケア会議）の定期開催等による包括支援センター職員の資質向上 月1回以上の管理者会議によるマネジメントの強化	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	包括職員の離職を防ぐため、法人の経営層に本事業の趣旨の理解を深めてもらうよう継続的に働きかけを行っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	本事業は、三位一体改革の社会保障の充実の一環であり、高齢者の地域生活の総合相談窓口の強化のために、平成29年度は、中部地域包括支援センターを設置した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 24日

中施策事業名	認知症総合推進事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている		
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる		
③中施策	高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	認知症になっても安心して生活できている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	- 認知症初期集中支援チーム - 認知症地域支援推進員の配置 - 認知症キャラバンメイトの養成 - 認知症サポーターの養成		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市内の認知症サポーターの数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	3,800	6,000	6,500	7,000	7,500	8,000
	実績値	3,921	5,388				
単位	人						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				13,745千円	18,080千円	
	a 事業費合計			10,790千円	15,157千円	16,057千円
	人 件 費	正規職員	人数	0.5 人	0.5 人	
			b 金額	2,955千円	2,923千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0.5 人	
			金額	0千円	2,390千円	
		人件費合計			2,955千円	5,313千円
② 補助金等 (収入)				8,722千円	12,542千円	12,363千円
③ コスト (①－②)				5,023千円	5,538千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				73 円	81 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	本事業は、三位一体改革の消費税財源を基にした社会保障の充実の一環であり、認知症対策に関する事業を新たに義務化され国から事業規模を拡大していくことが求められている事業である。住民に対する啓発活動や国立長寿医療研究センターと共同で『脳とからだの健康チェック』の実施により住民の認知症に対する関心が高まってきた。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	認知症に対する地域住民への啓発の継続的实施 認知症に対する地域の気づきの目を認知症初期集中支援チームへの相談へとつなげていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	国立長寿医療研究センターと共同で『脳とからだの健康チェック』を実施した。 認知症サポーター1万人プロジェクトとし、住民や職員向けの養成講座を開催した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	引き続き、住民向け、職員向け、大学病院職員向けの養成講座を開催する。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 24日

中施策事業名	一般介護予防事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている		
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる		
③中施策	高齢者が趣味や仕事などさまざまな場面でいきいきと活躍できるよう支援する		
④中施策事業の対象	65歳以上の市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	要介護状態になることを防いでいる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・地域介護予防活動支援に関すること ・地域リハビリテーション活動支援事業 ・一般介護予防事業に関すること ・一般介護予防事業評価に関すること		

■評価指標

中 ・ 長 期 成 果 に 対 す る 目 標 達 成 状 況								
要介護認定率		事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
		目標値	13.5	13.8	13.8	14	14.2	14.4
		実績値	13.2	13.8				
単位	%							
		事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				20,398千円	29,591千円	
	a 事業費合計			17,443千円	26,668千円	46,211千円
	人件費	正規職員	人数	0.5 人	0.5 人	
			b 金額	2,955千円	2,923千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	1 人	1 人	
			金額	2,133千円	2,121千円	
		人件費合計			5,088千円	5,044千円
② 補助金等 (収入)				15,441千円	23,334千円	40,434千円
③ コスト (①－②)				4,957千円	6,257千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				72 円	91 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	本事業は、介護保険の要支援者のデイサービス、ヘルパーサービスが介護給付から切り離されて、本事業へと移行したのもであり、本事業単体での事業費の伸びはそのためである。まちかど運動教室、らくらす、地域サロンのほか健康麻雀、大金星体操の普及など地域介護予防事業が充実し、給付費の伸びが抑制されており成果が現れている。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	大金星体操の普及等を通じた、住民主体の介護予防活動の普及を強化する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	大金星体操の普及等を通じた、住民主体の介護予防活動の普及を強化する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	まちかど運動教室参加者の地域を越えた交流を図り、継続のモチベーションを保てるよう全会場を集めたイベントとして「地域まるごとまちかど運動教室」を開催した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	開催頻度を月2回から4回に増やしたり、新たにまちかど運動教室を立ち上げる地区も出てきた。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 13日

中施策事業名	高齢者生きがいづくり事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている		
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる		
③中施策	高齢者が趣味や仕事などさまざまな場面でいきいきと活躍できるよう支援する		
④中施策事業の対象	60歳以上の市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	老人クラブの活動が活発になり、人々が趣味を楽しんでいる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・老人憩いの家に関すること ・老人生きがい推進事業委託（老人クラブ） ・老人クラブ連合会補助金に関すること ・東部知多温水プール利用助成事業に関すること・食生活改善推進事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
老人クラブ参加者数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	4,600	4,650	4,700	4,700	4,750	4,750
	実績値	4,570	4,429				
単位	人						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				8, 627千円	9, 266千円	
	a 事業費合計			7, 445千円	8, 097千円	18, 398千円
	人 件 費	正規職員	人数	0. 2 人	0. 2 人	
			b 金額	1, 182千円	1, 169千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0. 2 人	
			金額	0千円	20千円	
		人件費合計			1, 182千円	1, 189千円
② 補助金等 (収入)				1, 907千円	1, 907千円	0千円
③ コスト (①－②)				6, 720千円	7, 359千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				98 円	107 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	老人クラブ数の会員数の増加は見られない。クラブ数も減少している。会員として活動している人は、定期的に活動し生きがいづくりへ見出すことにつながっているが、今後は老人クラブの魅力を伝え新規会員を増やしていくことが必要だと考える。老人憩いの家の改修工事や老人作品展の実施による委託料の増加により、事業費は増えている。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	老人クラブ参加者数を増やすための方法や活動内容を検討していく。老人クラブ連合会主催の作品展や講座などで老人クラブについてのPRを行っていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	各地区にある老人憩いの家を平成34年度から地区譲渡を行うために、必要な箇所を順次改修していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	各地区にて老人クラブの活動を伝え、新規会員数を増やすためのPRを行っているが、現段階では会員数増加には至っていない。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	昨年度は作品展が開催されなかったため、各地区のみのPRのみに限られてしまった。平成30年度は、各地区のPRに加え、県の広報誌へ活動事例を紹介、近隣市町村との大会にてPRを行っていく。平成30年度から老人憩いの家を各地区の要望に応じて順次改修していく。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 27日

中施策事業名	老人福祉センター運営事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている		
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる		
③中施策	高齢者が趣味や仕事などさまざまな場面でいきいきと活躍できるよう支援する		
④中施策事業の対象	60歳以上の市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	趣味や健康づくりで集まる場所を知っている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・趣味講座 ・趣味教室 ・老人クラブサークル ・趣味サークル等		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
老人福祉センター 利用者数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	39,000	39,500	40,000	40,500	41,000	41,500
	実績値	42,973	35,056				
単位	人						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				11, 266千円	13, 070千円	
	a 事業費合計			10, 084千円	11, 901千円	11, 569千円
	人 件 費	正規職員	人数	0. 2 人	0. 2 人	
			b 金額	1, 182千円	1, 169千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0. 2 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			1, 182千円	1, 169千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				11, 266千円	13, 070千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				164 円	190 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	高齢者の活動拠点、憩いの場として貢献し、指定管理を行い、事業を行っている。入浴施設の利用者は増えていないが、健康器具利用者は増加し、教室参加者の満足度も高い。老人福祉センターを利用する団体数が減ったことや高齢化に伴い来所が難しくなったことで利用者数が減っている。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	老人福祉センター利用者数が増えるための方法を検討していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	指定管理の内容について検討し、利用者数が増えるための対策を考えていく。広報に老人福祉センターについてPRを行っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	施設の老朽化に伴い、浴室や各部屋の使い勝手が悪い部分もあり、適宜、修繕や改修を行っている。事業がある場合には参加者も多いが、定期教室等も講師の都合により開催できていないものもあり、新規利用者の幅が広がっていない。同場所にて実施している介護予防事業の利用者数は増えている。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	同場所にて行っている介護予防事業を利用する参加者は増えている。事業利用者数へのPRや広報への定期掲載を行っていく。利用者のアンケートを行い、利用者の満足度について調査する。	

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 27日

中施策事業名	高齢者在宅サービス事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない		
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する		
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる		
④中施策事業の対象	高齢者及びその家族		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	サービスの利用で家族の負担が減っている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・配食サービス ・外出支援 ・理髪サービス ・寝具クリーニング ・寝たきり老人介護手当 ・家族介護用品		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
外出支援の利用数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	4,100	4,150	4,200	4,250	4,300	4,350
	実績値	3,908	3,888				
単位	回						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				13, 217千円	12, 002千円	
	a 事業費合計			12, 035千円	10, 833千円	13, 572千円
	人件費	正規職員	人数	0. 2 人	0. 2 人	
			b 金額	1, 182千円	1, 169千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0. 2 人	
			金額	0千円	20千円	
			人件費合計		1, 182千円	1, 189千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				13, 217千円	12, 002千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				192 円	175 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	支援が必要な人及びその家族の負担が軽減できるように、外出支援事業や理髪サービス等の事業を行っている。利用している人からは、高評価をいただいている。事業内容の充実や対象の拡大についてはコスト面や他事業との調整も必要であるため、慎重に検討する必要がある。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	運転免許証自主返納者には、ひまわりバスの定期券を交付し、高齢者が外出支援に向けて制度を行っている。運転免許証自主返納事業のみでは、ひまわりバスの運行箇所のみへの外出に限られてしまうため、平成30年度から登録者が地域内の停留所に行けば目的地へ外出できるチョイソコを運行することとした。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	適正な対象者が利用できるように事業内容の周知を行っていく。高齢者の外出支援策について検討していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	事業の利用者拡大に向けて民生委員や地域包括支援センター等へ定期的に周知を行っている。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成30年 8月 24日

中施策事業名	生活支援体制整備事業	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿

①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する
③中施策	身近な地域で助け合える環境をつくる
④中施策事業の対象	65歳以上の市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	高齢期の生活に必要なサービスを知っている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	- 生活支援コーディネーターに関すること - 住民主体の生活支援体制に関すること - 高齢者外出支援事業に関すること - 在宅福祉推進活動委託に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
生活支援訪問サービス実利用者数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	20	30	40	50	60	65
	実績値	10	56				
単位	人						
ちゃんと実利用者	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	30	50	60	70	80
	実績値	0	57				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				8, 549千円	13, 729千円	
	a 事業費合計			5, 594千円	7, 884千円	10, 423千円
	人 件 費	正 規 職 員	人 数	0. 5 人	1 人	
			b 金 額	2, 955千円	5, 845千円	
		非 常 勤 一 般 職 員 等 (事業費に含む)	人 数	1 人	1 人	
			金 額	2, 096千円	2, 121千円	
		人件費合計			5, 051千円	7, 966千円
② 補助金等 (収入)				4, 559千円	6, 524千円	8, 417千円
③ コスト (①－②)				3, 990千円	7, 205千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				58 円	105 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成29年度はおたがいさまセンターちゃっとが開所し、介護保険サービスで対応できない多様な生活のお困りごとを相談できる機関ができた。本事業は、三位一体改革の消費税増税分を財源とした社会保障充実事業として実施するもので、国から事業規模を拡大していくことが求められている事業である。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	おたがいさまセンター「ちゃっと」への依頼件数が増えており、ニーズに応えられないケースも想定されることから、サポーター養成講座の定期開催し、さらなるサポーターの確保をしていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	区と連携したサポーターの確保 サポーター養成講座の定期開催	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	成29年度はおたがいさまセンターちゃっとが開所し、介護保険サービスで対応できない多様な生活のお困りごとを相談できる機関ができたことは大きな成果である。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成30年 5月 30日

中施策事業名	シルバー人材センター関係事務	部課名	健康福祉部・健康長寿課
		作成者	小川正寿
①めざすまちの姿	33 高齢者、障がい者など誰でも居場所と出番があり、経験や知識を活かして働き、収入と生きがいを得ている		
②大施策	高齢者、障がい者の活躍の機会や場を増やし、収入と生きがいを得ることができる環境をつくる		
③中施策	高齢者、障がい者の活躍の機会や場をつくる		
④中施策事業の対象	60歳以上の市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	仕事をし、生き生きした高齢者が増えている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	シルバー人材センターに関すること 老人クラブ連合会補助金に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
受注件数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	2,200	2,250	2,300	2,350	2,400	2,450
	実績値	2,105	2,019				
単位	件						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				28, 449千円	26, 382千円	
	a 事業費合計			27, 267千円	25, 213千円	26, 477千円
	人 件 費	正規職員	人数	0. 2 人	0. 2 人	
			b 金額	1, 182千円	1, 169千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0. 2 人	
			金額	0千円	20千円	
		人件費合計			1, 182千円	1, 189千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				28, 449千円	26, 382千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				414 円	384 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	受注件数は地下駐車場の廃止と家庭における屋外作業などの受注量減少に伴い、受注件数は減少している。しかし、登録者は増えており地域社会とのかかわりから生きがいを持つことに貢献できている。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項		
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	シルバー人材センターに登録し、活動する高齢者が増えるように周知を行っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	受注単価を作業に応じて10円～20円値上げし、補助金も見直した結果、会員登録数は増加している。地下駐車場業務の廃止と家庭における屋外作業などの受注量が減少したため、受注件数はわずかに減少している。新たな受注につなげるために、ちらしの配布やポイント獲得制度を行っている。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		